

市河三太先生を偲んで

昭和大学名誉教授
本間 生夫

市河三太先生（昭和大学名誉教授）は、平成 25 年 7 月 9 日、老衰のため逝去されました。享年 92 歳でした。市河先生は、大正 10 年 3 月に東京に生まれ、昭和 21 年東京慈恵会医科大学ご卒業後、昭和 22 年、横浜医学専門学校（現横浜市立大医学部）助手、講師とられました。昭和 32 年からは、昭和医科大学（現昭和大学）教授として 29 年間の長きにわたり生理学の教育、主に平滑筋生理学を専門とした研究に励まれました。

市河先生は学生時代、慈恵医大生理学教室の地下にあった生物科学研究部の部屋で、先輩諸氏から多くの刺激を受けました。部員として阿部正和氏、島野毅八郎氏、酒井敏夫氏、入沢宏氏、部長や顧問として慈恵医大生理の浦本政三郎氏、杉本良一氏、内山孝一氏、名取礼二氏、西丸和義氏らがおられました。その後、血管生理学を樹立され長く脈管学会会長をしておられた西丸和義先生の研究室に学びました。西丸先生との出会いによって、研究室の仲間は皆、家族、同志であるという強い精神的なきずなを得、人生のすべてにおいて多大な影響を受けました。市河先生は血管生理学から平滑筋生理学へと進むことになり、昭和 27 年、オハイオ州立大学の Dr. Emil Bozler の教室に留学し、犬胃の活動電位についての研究を行います。胃の縦走筋と輪走筋から別個に同じ波形の活動電位を導出し、これらの興奮伝播について調べ、機能的合胞体としての特徴を研究しました。帰国後、戦後の乏しい設備の中で平滑筋の電気生理学への道を進みます。昭和 34 年、平滑筋筋電図関係を脳波筋電図学会より独立させようと平滑筋筋電図研究会（後の日本平滑筋学会）が発足し、東北大学外科の横哲夫氏、泌尿器科の白鳥常男氏、生



理学の本川弘一氏、鈴木泰三氏と共に発起人の一人となりました。基礎と臨床が共通の話題を討論する学会を夏にゆっくり開くという趣旨でしたが、昭和 51 年には、第 18 回日本平滑筋学会会長として山中湖畔で学会を主催しました。学会そのものもさることながら園遊会形式の洒落た懇親会が成功し、とても喜んでおられたのが印象に残ります。

二回目の留学は、教授職となってからで、「後は私が引き受けた。安心して勉強していらっしゃい。」という第一生理、井上清恒教授の励ましで実現しました。昭和 35 年、米国ロチェスター大学及びコーネル大学の Dr. E. Gasteiger の元で消化管運動の調節系としての脊髄波に関する研究をしました。帰国後は、胆汁排泄機構の研究を立ち上げ、胆嚢の収縮と Oddi 括約筋の弛緩についての神経

機構等を調べる一方、消化管、尿管、子宮等の電気現象の発生、調節についての研究を行いました。先生にとって、和気あいあいとした自由で皆が対等に研究できる教室が理想であり、教授が研究方針を決め、弟子の論文を教授が校閲するというような事は良しとしません。また、若い人には「生理学実験は、準備をよくして装置がちゃんと働けば70%終わったのと同じである」からとガラス細工をさせ、増幅器の機構を理解して組み立てる体験をさせ、臨床医学と物理学、免疫学、形態学等の基礎的な学問を固めることを求めました。若い頃その魅力に引き付けられた西丸先生の教えが心の中にあり、市河先生の理想と重なっていると感じました。

市河先生は、教育にも熱心に取り組み、講義では、原著や米国の教科書から引いた図版をプリントとして学生に配り、質問に来る学生と定期的にセミナーをしてより深い理解を助けてくれました。コピーが不自由な時代にも市河先生を慕って常連の学生が教室に入出入りしていました。その頃の経験を踏まえ、昭和47年、朝倉書店から「基礎生理学」を出版、教科書としましたが、わかりやすさを考えて学生に対していた先生らしい表現がそこここのにぞきます。また市河先生は、看護婦(師)の教育に熱意を示し、特に看護師の社会的地位の向上が必要との考えをお持ちでした。付属看護専門学校で講義を楽しみにされ、昭和61年の定年退職後もしばらく引き受けて頂きました。

市河先生は、日本生理学会の教育委員、日本生理学雑誌編集委員、生理学用語委員を務められました。親友である慈恵医大の故酒井敏夫先生らとともに生理学実習書の改訂に関わり、実習のビデオ撮影にも熱心に参加されました。私は、昭和57年、第二生理学教室の助教授として慈恵医大から昭和大学に赴任し、市河先生の後任教授として都合30年を過ごしました。前述の実習ビデオ撮影には必然的に私もかなりかかわり、パナソニックの教育部門と必死になって撮影したのを覚えています。生体が示す現象を緻密に追っていく、生理学の醍醐味を市河先生から学びました。

市河先生は、驚くべきメモ魔で、すべての出来

事を手帳に書き込んでいました。この資料をもとに定年退職時に「三太雑記」を著わし、3回の留学生活や海外の学会での経験、研究の流れや教室での出来事を書いておられます。西欧文化への憧憬と出会った人々の優しさ、親切な人柄をみずみずしく、ありのままに記しています。どこかひょうきんで周りを明るくしてしまう先生は、研究の自由を何よりも大切にされ、笑いの絶えない教室でした。「実験をしている人は誰よりも偉い」と言って軽く尻を叩く一方、様々な雑用をご自分で行いました。先生の周りは整理整頓がきちんとなされ、「生理学は整理学である」と言っておられた通りでした。平成7年4月には、勲三等瑞宝章を受章され、その祝賀会では最高の笑顔を見せて頂きました。多くのエッセー集を出版し、水彩画、スケッチ、鎌倉彫を楽しまれましたが、平成16年に奥様を亡くされてから数匹の猫ちゃんとの静かな暮らしでした。この4月に私の後任に泉崎雅彦君が決まり、新たな教室の出発を見届けるかのように先生は旅立たれたのです。これからは、懐かしい方々と共に生理学のこれからは見守って頂けるものと思います。市河三太先生のご冥福を謹んでお祈り申し上げます。

略歴

大正10年3月31日 東京府原宿に出生
昭和21年9月 東京慈恵会医科大学卒業
昭和22年5月 横浜市立医学専門学校生理学教室助手
昭和27年6月 オハイオ州立大学医学部留学
昭和29年1月 横浜市立大学医学部講師
昭和32年2月 昭和医科大学教授
昭和35年9月 ロチェスター大学医学部留学
昭和36年6月 コーネル大学客員教授
昭和38年6月 昭和医科大学教授復職
昭和43年7月 ニューヨーク州立大学客員教授
昭和51年7月 第18回日本平滑筋学会会長
昭和61年3月 昭和大学定年退職、昭和大学名誉教授
平成7年4月 勲三等瑞宝章受章
日本生理学会評議員、教育委員、日本生理学雑誌編集委員、日本平滑筋学会理事、監事